

エゾノギシギシ

Rumex obtusifolius

タデ科



エゾノギシギシ

名前の由来

別名をヒロハギシギシというが、北海道に多いということでエゾ（蝦夷）ノギシギシと命名された。「ギシギシ」は、茎と茎をこすりあわせるとギシギシと音がすることからついたと言われている。
漢字名：蝦夷羊蹄

形態的特徴

高さ50～130cmになり、茎は直立する。根元から楕円～長楕円形の大きな葉がのびる（根生する）。葉の葉脈や柄は少し赤味を帯びて縁は波打ち、裏面脈上に短毛が密生する。花は小さく淡緑色、茎の上部に長く穂状につく。果実は中央が膨らんでコブのようになり、3枚のひれ状の翼に囲まれ、その翼にギザギザの突起があるのが特徴。

類似種と見分け方

ナガバギシギシ・ノダイオウ。

は大きく翼は滑らかで中央にコブは無い。

ナガバギシギシの果実の翼は滑らかで中央にコブを持ち、根出葉は細長い楕円形。ノダイオウは全体が壮大で、果実



エゾノギシギシ。
右は果実。中央がふくらみ、翼にギザギザあり



ノダイオウ。
右は果実。翼は滑らかで、ふくらみはない



ナガバギシギシ。
右は果実。中央がふくらみ、翼は滑らか

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

畑や荒地、道端で普通にみられる。

分布：国外分布は、ヨーロッパ原産で温帯域を中心に世界中に帰化している。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、道端や草地に普通に見られる。繁殖力が強いいため、畑や牧草地では害草となっている。

生活史

開花時期：7～9月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。



エゾノギシギシの花

他生物との関わり

ベニシジミの幼虫の食草になっている。



ベニシジミ。
幼虫時、エゾノギシギシを食草とする

興味深い話

■根にはアントラキノンという色素が含まれていて抗菌作用があり、根の汁は水虫の治療薬に用いられる。乾燥した根は羊蹄根といい、利尿や緩下薬として用いられる。

■出たばかりの鞘に包まれてぬめりがある若芽が食用になり、鞘を取り除いてゆでて水にさらしたあと、おひたしやあえもの、油炒め、煮物などにする。



エゾノギシギシの葉



エゾノギシギシの若芽。食用となる

配慮事項

エゾノギシギシは刈り取りに対して強いともいわれている。

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・森林)
鳥類
ワシ・タカ